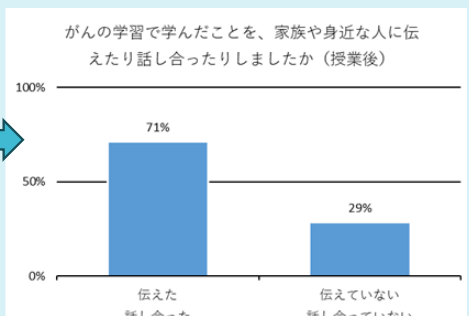
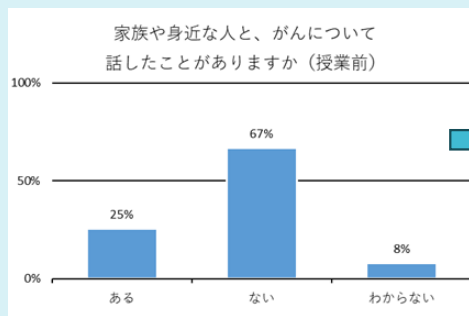
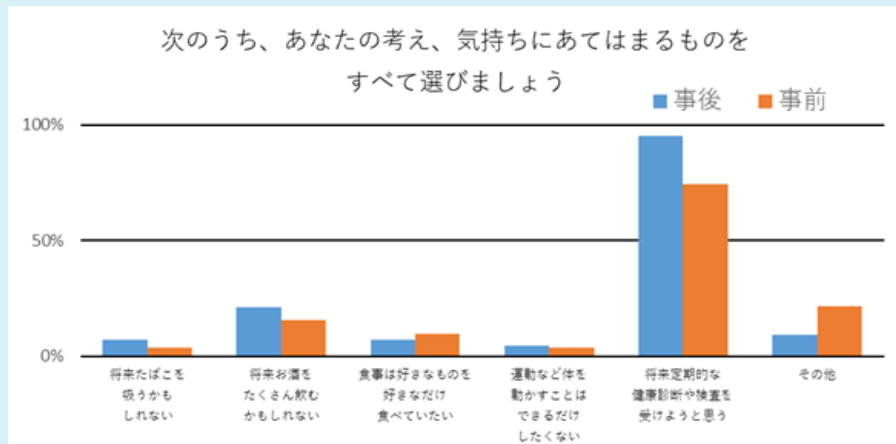
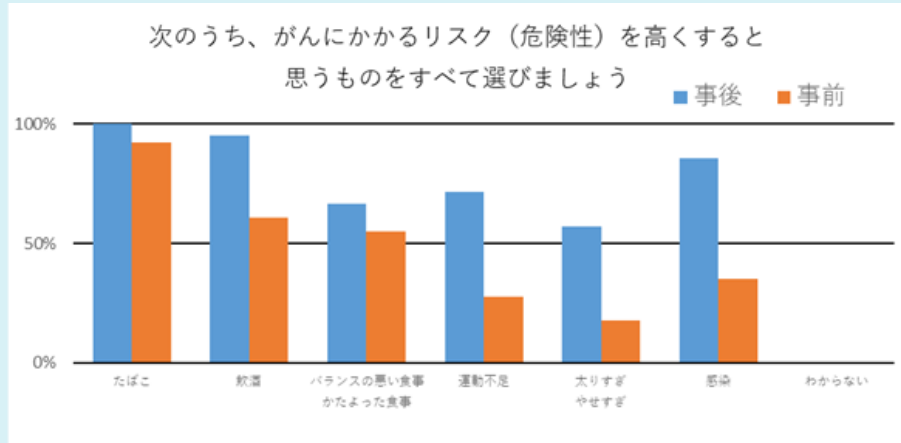
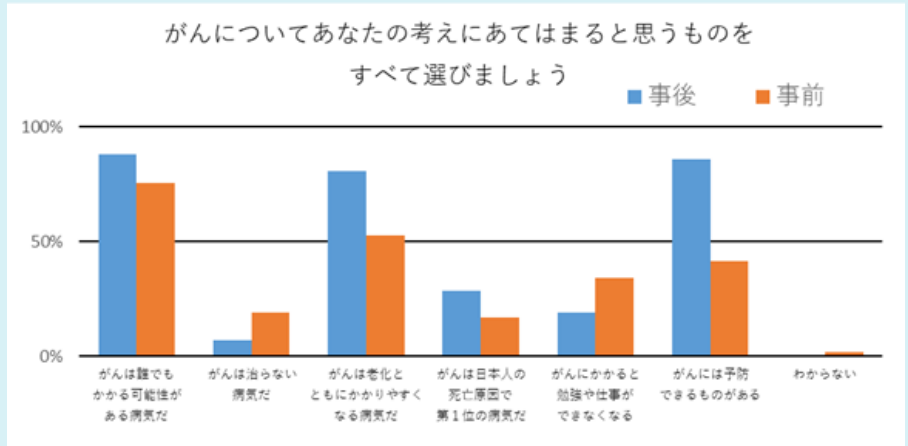


がん教育実施報告書

学校名	郡山市立安積第二小学校
実施対象者 (学年・保護者など)	5年生58名、保護者3名
教育課程の位置づけ	学級活動
実施日時	令和8年1月20日(火) 13:15~14:00
打合せについて	【1回目】方法：電話 内容：日程調整、荒天時の対応
	【2回目】方法：電話、メール 内容：最終確認、事前・事後アンケート、駐車場
外部講師 職・氏名	みちや内科・胃腸科 齊藤 道也医師
実施内容	<p>【めあて】</p> <p>(1) がんについての正しい知識(予防できること、早期発見によって治癒する可能性が高いこと)を理解する。</p> <p>(2) 健康と命の大切さについて考えることができる。</p> <p>【指導過程・授業の様子】</p> <p>(1) 「がん」とはどのような病気か(原因、どこにできるか、治療など)</p> <p>(2) 「がん」の対策(生活習慣、特に喫煙とその影響を重点的に)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・喫煙、受動喫煙、イエローグリーン運動、電子たばこの理解、3つの対策(たばこ、子宮頸がんウイルス、検診) 他 <p>(3) 健康と命の大切さについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がんにかかった人との接し方、自分にとって大切な人へ、「がんにかからないためのメッセージ」を考え、伝えること 薬物依存の入り口としてのたばこ
	   

※ 学校からの連絡メールシステムで授業参観について呼びかけ、フォームを使用し事前に参観希望者を把握した。平日5校時の時間帯にもかかわらず4名の保護者に希望をいただき（当日1名欠席）、参観していただくことができた。また、家庭への啓発も兼ねて学校HPで授業の様子をお知らせした。

【児童へのアンケート結果から】



【授業後、家族や身近な人に伝えたり話し合ったりした内容について】

(児童がアンケートに記入した内容を抜粋、転記)

- ・「お酒やタバコが癌の原因になるんだって」と言った。
- ・お母さんががん教室に来たので、こんなこと話してたね、あんなこと話してたね、と、親子で確認した。
- ・がんは、細胞からできるんだよ。(と伝えました)
- ・がんが日本人の死亡原因で1位のこと、まわりのタバコの煙を吸うだけでもがんになる可能性があること。
- ・親にこれからは、タバコを吸うのは控えて、また、アイコスも危険だと伝えました。
- ・『50年間タバコを吸ったら1200万円損するよ』と伝えた。
- ・「お酒(アルコール)を飲みすぎないで健康診断を受けてね」と伝えました。
- ・がんはたばこ、飲酒、運動不足、バランスの悪い食事などで、起こる危険性を高めるということ。
- ・がんの予防対策は、タバコを吸わないようにしたり、ワクチンを打つことだとつたえました。
- ・定期的に検診を受けてたほうがいいよ。(と伝えました)
- ・がんは約70%の確率で治るということ。受動喫煙でがんにかかる可能性があること。

【成果と課題】

○参観した保護者に簡単に感想を記入してもらい保護者を含めた啓発効果が見られた。

○授業後の事後アンケートから、がんについて「治らない、かかると仕事や勉強が出来なくなる」等のネガティブなイメージが軽減され、予防可能ながんもあり、仕事や勉強を続けることも可能な場合が多くあることを理解した児童が増えた。

○授業後、回答した全員の児童が「喫煙はがんのリスクをあげる」と回答した。また、「感染」についても多数回答があり、ワクチン接種の必要性を理解し接種への動機づけとなることが期待される結果だった。

○授業後、回答した7割の児童が「がん教育」で学んだことについて家庭で共有していた。

○若干だが将来「たばこを吸うかもしれない・お酒をたくさん飲むかもしれない」と回答した割合が増えていた。

→ 授業で学習したことをきっかけに、反発心で答えてしまったのか、喫煙や飲酒の習慣を将来の自分事として捉えたためなのか、喫煙習慣等をもつ身近な家族を正当化せずにいられなかった子どもらしい心の動きなのか、推測の域を出ない。発達段階を考えると、このような結果は起こりえることだと思われる。

○今後、小6の保健(病気の予防)や中学校進学後など、繰り返し学習する場面がある。学習の機会を積み重ねながら望ましい自己決定・行動選択が出来るようになって欲しい。このような機会は改めて大切だと感じている。